

事例番号 135 市民主体でまちの資産を活かす再生への取り組み  
(佐賀県鹿島市・肥前浜宿地区)

1. 背景

鹿島市は佐賀県の西南部に位置する人口約3万3千人のまちである。東は有明海に面し、西は多良岳山系に囲まれている。この地で人が暮らすようになった歴史は古く、縄文時代前期のものと思われる土器などが発見されている。927年の「延喜式」には「肥前国 鹿嶋馬牧」と記載されている(駅舎の役割であったと考えられている)。中世以降は大村氏、有馬氏の勢力圏となり、近世に入ると竜造寺氏の支配を経て鍋島氏の鹿島支藩(初代藩主鍋島忠茂が1609年から統治)となってまちが発展した。また、鹿島は交通の要衝としても賑わった。現在では佐賀県および鹿島市の観光拠点として期待されている鹿島の肥前浜宿は、長崎街道の脇街道である多良海道の宿場町であった。長崎街道本道が長崎奉行といった江戸の役人が通る道であったのに対して、多良海道は長崎御警固番であった佐賀鍋島家の殿様が通った道であり、在方町であった浜に宿が設けられて宿場町となったものである。鹿島にある日本三大稲荷の一つである祐徳稲荷神社には古くから参拝客が絶えなかったが、現在でも年間280万人もの参拝客が訪れている。

鹿島では浜川の川港による運輸の利便性を背景に、多良山系からの清浄な水や有明海の豊かな水産物を資源とする醸造業(酒、醤油等)や水産加工(かまぼこ等)など「水」に関わる生業が育まれてきた。そのため鹿島には多くの酒蔵、土蔵造りの民家、茅葺き民家などが設けられてきた。浜川をはさんで北側の長崎町、浜新町、八宿、中町のいわゆる「酒蔵通り」には白壁土蔵造りの町屋や蔵がある一方、南側の庄金や南舟津には草葺民家があるなど、鹿島には現在でも地区毎に歴史を感じさせる町並み景観が残っている。



鹿島市の位置と肥前浜宿のまちなみ (資料:鹿島市観光協会ホームページ)

鹿島は明治以降は統廃合を重ね、1954(昭和29)年に鹿島市となる。鹿島市の現在の産業構造を2000(平成12)年国勢調査の就業者割合で見ると、第一次産業17.7%、第二次産業29.3%、第三次産業が52.9%となっており、第一次産業は減少傾向にあるものの就業人口割合や生産額割合は県内7市の中では最も高くなっている。このため鹿島市は他都市に比べ近代化の荒波に洗われる度合いが小さく、豊かな景観がよく残されてきた。

しかしながら、戦後の高度経済成長期の過程においては、河川改修で移転を余儀なくされたり、酒造りなどの生業が成り立たなくなったことなどを背景に、歴史的な建物や町並みの景観が失われる傾向が出てきた。鹿島市は福岡市や長崎市からはJR長崎本線で約1時間の距離にあることから、画一的な都市化の波と無縁であることも難しくなった。このため、全国的に貴重な歴史的町並みが残っている浜地区や古枝の大村方区では景観を個人の力だけで維持することが難しい状況になってきた。また、市の中心部から離れているところでは伝統的な家屋の傷みがひどくなってきた。このような状況に対し、市では、大切な歴史的資産を将来に残すべく、また、市のイメージづくりや観光資源に活用すべく、市及び肥前浜宿の景観保全にのりだすこととなった。



鹿島市の観光名所 (資料:鹿島市観光協会ホームページ)

## 2. 目標

鹿島市の第四次総合計画(計画期間:2001~2010年)は、将来都市像を「人が輝くまち鹿島」(有明海と多良岳山系に囲まれた豊かな自然環境と、歴史と伝統にはぐくまれた風土を大事にしながら、人々がそれぞれの個性を活かし心豊かに生活できるまち)とし、以下の5つの都市づくりを推進することとしている。

- ① 地域産業の自立性と創造性を追及し、高度情報社会に対応できる〔産業都市〕
- ② だれもが安心して暮らせる心豊かな〔福祉都市〕
- ③ 風土を愛し、郷土愛と創造性豊かな鹿島人をはぐくみ、生涯楽しく学びながら暮らせる  
〔生涯学習都市〕
- ④ 自然環境と都市機能が調和した〔地域中核都市〕
- ⑤ 市民の主体的な参加と連携によるまちづくりを進める〔参加・連携都市〕

また、「まちの景観づくり」に関しては、「そのよってたつ原理原則」を市民全体で確認しながら「生活感にあふれた風格と潤いのある美しいまちづくり」を「民官の協働と粘り強い市民間の合意形成」によって進めることとし、以下の施策を掲げている。

〔美しい景観を鹿島の資源として掌握するために〕

- ① 景観の調査・分析事業
- ② 景観の評価・予測事業

〔景観の有効性を市民認識へと展開させるために〕

- ① 鹿島らしさを活かした風景デザインの創造及び市民会議の開催
- ② 全国町並みシンポジウムなどの誘致
- ③ 町並み探検隊の創設
- ④ 景観イベントの推進(スケッチ会・撮影会・屋外コンサート・屋外展覧会など)
- ⑤ 環境体験イベントの推進
- ⑥ 四季の風景コンテストの開催

〔景観の保存と創造に向けて〕

- ① 景観コンセプトづくり
- ② 浜宿酒蔵通り伝統的建造物群の指定
- ③ 景観条例の制定検討
- ④ 産業と景観をつなぐデザインキャラバンの採用
- ⑤ 景観・アート事業の推進
- ⑥ 街中親水空間の創造

〔市民参加による美化活動の推進〕

- ① 水路、道路などの美観創造及び維持活動の推進
- ② 四季を通じた花とみどりのまちづくり事業の実施

一方、浜宿においては、街並みづくりのマスタープラン作成に向けて市民、市職員等がワークグループをつくり、意識調査、町並み調査を経て「肥前浜宿まちづくりの方針」を作成した。そしてそれをベースに地元関係者、議員、学識経験者、市職員等からなる肥前浜宿歴史的町なみ活性化マスタープラン検討委員会が「鹿島市肥前浜宿歴史的な町並み活性化マスタープラン」を決定した。同プランは以下の目標と基本方針とを掲げている(鹿島市ホームページから)。

〔まちづくりの目標〕

浜宿独自の歴史と生活文化にあふれた活力ある町の実現

〔まちづくりの基本方針〕

- ① 鹿島の自然環境を守り、その範囲で活用しよう
- ② 肥前浜宿の優れた歴史的な建物を保存し活用しよう
- ③ 肥前浜宿の生活文化を大切にしながら、その生活環境を向上させよう
- ④ 肥前浜宿の古いものを単に残すだけでなく、新しい生活様式との調和させよう
- ⑤ 鹿島そして肥前浜宿の豊かさを全国に発信しよう
- ⑥ 祐徳稲荷神社や浜宿の町並みなどが連動して、観光による経済効果を図ろう
- ⑦ 高齢者が元気で生活しやすいように配慮しよう



1 富久千代酒造	2 継場	3 浜郵便局跡(八宿公民館)
4 山口醤油醸造場	5 光武酒造(金波)	6 呉竹酒造
7 東蔵	8 旧魚市場	9 客屋跡(中町公民館)
10 峰松酒造(王将)	11 若宮神社	12 飯盛酒造(福千代)
13 中島酒造(君恩)	14 水頭酒造(万寿亀)	15 泰智寺
16 鹿島鍋島家墓所		

街並み案内図 (資料:鹿島市ホームページ)

### 3. 取り組みの体制

#### (1) 「肥前浜宿水とまちなみの会」

2002(平成14)年1月に「肥前浜宿水とまちなみの会」が設立された(年会費1,000円、「浜町振興会」の「まちなみ部会」が母体)。浜町の歴史的遺産である酒蔵通りを中心とした古いまちなみを保存・活用することで後世に伝えることを会の活動目的としている。「肥前浜宿まちづくりの方針」を策定するために「ワークグループ」にも参加し、ワークグループがその役割を終えた後は肥前浜宿のまちづくりを支える主要な組織になった。約70名のメンバーが「景観デザイン部」「広報催事部」「建物活用・産業開発部」に分かれて調査研究、イベント開催等の活動を行っている。「花と酒まつり」や「酒蔵コンサート」なども開催している。2005年11月には特定非営利活動法人として認定された。

同会は2005年度には「佐賀県まちづくり活動支援制度」の支援対象の7件の中の1件に選ばれて「肥前浜宿の歴史的建物と町並みの保存活用」の活動を行っている。この活動は、歴史的建築物と町並みの保存・活用を図っていくため、地域の特性を活かした体験型ツーリズム、イベントの開催、ボランティアガイドの育成などを行うものである(経費200万円、うち160万円を佐賀県が補助)。

#### (2) 「浜川協議会」

1997(平成9)年に河川法に「河川環境の整備と保全」が位置付けられたことから、肥前浜宿水とまちなみの会、浜町振興会、浜川改修期成会、浜町区長会及び行政担当部局により「浜川協議会」が設置された。同協議会は、地域の意見を反映した河川整備を推進することを目的として設置されたものである。

#### (3) 「肥前浜宿まちづくり協議会」

また、2003(平成15)年に「肥前浜宿まちづくり協議会」が設置された。協定地区協議会役員、浜町振興会、区長会、肥前浜宿水とまちなみの会、建築士会等がメンバーであり、市担当部課が事務局となっている。住民の意見を反映させて街なみ環境整備事業を推進することが目的である。

### 4. 具体策

#### (1) まちづくりの体制整備

肥前浜宿のまちづくり組織として「肥前浜宿水とまちなみの会」が結成され、まちづくりの方針として「鹿島市肥前浜宿歴史的な町並み活性化マスタープラン」ができ、地元住民等の協議の場として「肥前浜宿まちづくり協議会」が設置されたことで、まちづくりの体制が整った。この体制の下でまちなみ保全や浜川改修が行われている。この間の主な経緯は以下のとおりである。

1997～1998年度	伝統的建物群の保存対策調査
2000年12月	地域住民に対する意識調査の実施 浜地区、大村方区の20歳以上600人対象にアンケート調査 (歴史的建造物の利活用、観光化、雇用機会確保等の意見)
2002年1月	「肥前浜宿水とまちなみの会」設立

2000年6月	ワークグループで方針素案作成(市民・市職員など約70名参加)
～2002年11月	検討委員会で方針案検討(地元、議員、学者、市職員等29名)
2002年12月	市長に答申、基本方針決定 (基本計画の主な内容) 酒蔵通り沿いの伝統的建造物を保存 他の町家も町なみを意識した建物に改修 道路舗装や電柱の除去 浜川を町なみに合わせて親水性のある水辺空間に改修 等
2003年	「肥前浜宿まちづくり協議会」設置

## (2) 伝統的建造物群利活用プログラムの検討(「肥前浜宿水とまちなみの会」の活動)

「肥前浜宿水とまちなみの会」は上記の方針づくりや調査研究、様々なイベントの開催など多彩な活動を展開してきている。肥前浜宿には長い歴史のある鮎市や祇園祭りがあるが、同会は新しいイベントとして、2月の「肥前浜宿ウォーク」、3月の「肥前浜宿花と酒まつり」、5月の「肥前浜宿スケッチ大会」等のほか世界的ピアニスト招聘した酒蔵コンサートなどを行っている。このような活動の実績の上に、同会は2004年度の全国都市再生モデル調査に応募して選ばれた。調査名は「浜宿独自の水文化に根付いた伝統的建造物群利活用プログラムの検討」であり、そのねらいは「外的資本参入に対しても揺るがない肥前浜宿独自の水文化に根付いた伝統的建造物群の利活用プログラムの実現に向けた実践的な検討」を行うことであった。調査の内容は以下のようであった(都市再生本部ホームページ掲載の内容から引用)。

### ① 肥前浜宿独自の水文化体験プログラムの開発とその実験

米造り・酒造り体験、有明海干潟体験、商品開発を折り込んだ観光プログラムを地域住民組織主導で作成(旅行会社等と協働)

### ② 伝統的建造物運用モデルの具体的検討

伝統的建造物を保存修理活用するための資金調達(低利融資等)、建物設計、不動産管理、保険等に関して検討し、伝統的建造物を資産運用したときのキャッシュフロー(将来像の作成、修復費用等の算定、資金回収予測)のモデルを作成(草葺き民家、土蔵造り民家、酒蔵のタイプ別)

### ③ 浜宿独自の水文化と建物利活用に関するシンポジウム等の実施

シンポジウム「佐賀県遺産・肥前浜宿のまちづくり対談」を開催(約200名参加)

①に関しては、プログラムの開発を引き続き行っていく予定であり、②に関しては地元建築士6名が設立した「肥前浜宿まちづくりデザイン研究会」が相談窓口を設置する予定とのことである。

### (3) 川の保全(「浜川協議会」の活動)

浜川は台風で氾濫しかかったため、住民の要望で改修工事(治水・高潮対策)が行われることとなったが、用地買収が進むにつれて地元からは生態系や歴史的景観への影響を危惧する声が出るようになった。そこで、肥前浜宿水とまちなみの会、浜町振興会、浜川改修期成会、浜町区長会、及び行政担当部局により「浜川協議会」が設けられ、以下の諸点を中心に協議が続けられてきている(三島伸雄「川と町、動き出した2つの協議会」から抜粋引用)。

- ① 生態系の保護
- ② ムクノキ等の現地保存
- ③ 歴史的石垣護岸の保全と親水性の確保

①に関しては湧水の保全が、②に関しては1ヵ所の保存と他の1ヵ所の移植の検討が、③に関しては昔からの石を多く用いた石垣と石階段の整備が、行われる方針ということである。

### (4) 町並み保存と環境整備(「肥前浜宿まちづくり協議会」の活動)

まちづくりに住民の意見を反映させるために「肥前浜宿まちづくり協議会」が設けられた。肥前浜宿水とまちなみの会、協定地区協議会役員、浜町振興会、区長会、建築士会等のメンバーで、まちなみ、水路、小公園、来街者のためのトイレ、案内板等の整備や伝統的家屋等の景観保全等に関して協議している。まちづくりの基本方針としては、①伝統的建造物群保存地区の指定、及び②街なみ環境整備事業の適用を目指すこととなり、伝統的建造物群保存対策事業に関しては2006年7月に次の2地区が指定されている。

浜庄津町浜金屋町(2ha、港町・在郷町)  
浜中町八本木宿(6.7ha、醸造町)

選定の基準は、前者に「伝統的建造物群及び地割りがよく旧態を保持しているもの」が、後者に「伝統的建造物群が全体としてよく意匠的に優秀なもの」が適用された。街なみ環境整備事業は、2005年度に小公園の造園、公衆トイレの整備等が行われている。

## 5. 特徴的手法

市民がまちづくりの組織を立ち上げて主体的に活動を開始するとともに、調査研究を行いつつまちづくりの方針づくりに参加し、それを行政が計画に位置づけ、それに基づいて更にまちづくり組織が活動を展開するという円滑な協働関係が築かれている。河川整備に関しても事業開始後に地元の新たな意向を踏まえて計画を協働で再考するなど、事業実施における柔軟性が確保されている。全国都市再生モデル調査においても、地元の人々の主体的な活動を通じて観光振興策や伝統的建築物再生策を検討しており、地域の人々中心、地域にある資源重視の姿勢が貫かれている。



継場: 旅人の荷物を運送する問屋 (資料: 鹿島市ホームページ、以下同じ)



魚市場 (この魚市場では、昭和 39 年まで鹿島市全体の魚を取り扱っていた)





大村方酒蔵と水（大正期の煉瓦造麹室、巨大な酒蔵が水路に沿って建っている。次図も同じ）





南舟津・庄金の町並み



中町・大村方の町並み

## 6. 課題

佐賀県や鹿島市を訪れる観光客にいかに関前浜宿地区を訪れてもらい、まち中を回遊してもらうか、内外交流の促進と伝統的建造物の保存とをいかに連動させて相乗効果を発揮させるか等が引き続き地道に検討されていくことが期待される。

(参考・引用文献)

鹿島市ホームページ

佐賀大学理工学部助教授三島伸雄「川と町、動き出した 2 つの協議会」(日本都市計画学会九州支部ニュース(2003 年 8 月))

全国都市再生の推進「全国的建造物運用モデルの検討」(都市再生本部)

全国都市再生モデル調査データベース